

❖ごあいさつ

■学校運営協議会より(元木小学校学校運営協議会 会長 高橋寛行)

12月4日に学校運営協議会情報連絡会に出席しました。

市内の小中学校の学運協会長が集まる会で、冒頭、教育委員会の安間教育長から「みんなが集う学校の未来(八王子市教育委員会指針)」と題し2040年に向けた小中学校のあり方についてお話がありました。「小中一貫教育」と「地域活動を推進する場としての学校」の大きく2つの取組を進めるようです。これは学校と地域をより一層密接につなげ、地域全体で子どもを育てる教育環境づくりを目指しています。ただ、18年先(今の6年生が30才)の未来像を描いています。今日現在が大きく変わる訳ではありませんのでご安心ください。詳しくはこちらのQRコード、もしくは下記URLからご確認ください。



みんなが集う学校の未来

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kyoiku/002/sisin/p031561_d/fil/shishin.pdf



各校の会長と

また、ミーティングの時間では6校程度各テーブルに別れ、学運協の役割などについて話会いました。各校の運営について熱心に語り合い、大変勉強になりましたが、「地域全体で子どもたちを見守る」機能が最も重要な役割ではないか、との一致した意見になりました。

今後も、その意識を大切に皆様とともに子どもたちを見守って参りますので、一層のご協力をお願い申し上げます。

寒い毎日が続きますが、お体を第一に健やかな新年をお迎えください。

■学校長より(元木小学校 校長 刀禰^{とね}俊明)

2学期は、運動会・学芸発表会・学校公開とコロナ禍でしたが、いずれも天候にも恵まれ、学運協の会議等を通してご助言もいただき工夫して何とか実施することができました。放課後子ども教室でのことや様々な地域の情報を教えていただき、また学校の状況も詳しくお伝えし、学運協に支えていただきながら、学校経営が進んでいます。産育休代替が見付からず、厳しい状況ですが、その中でできることを一緒に考えていただいています。

令和4年も終わりとなりますが、今年の御礼とともに、令和5年中には新薬が出るなどして、コロナの終息を願いつつ、来年もよろしくお願いいたします。



運動会



学芸発表会

◆活動報告（委員が代表を務める組織の活動）

■恩方東学童保育所（降矢 千尋 委員 代理 中村 誠太さん ）

「二学期になり、運動会や学芸発表会の練習などで忙しい子どもたち。学童でも無意識に運動会や学芸発表会の歌など口ずさんでいたり、時間が限られている中でしっかりと覚える子どもたちは流石です。11月に入り、基本的には外遊びが中心ですが、リリヤーンやクリスマス工作のステンドグラスを作ってゆったりと過ごしました。

年明けからは凧揚げやコマ・けん玉・縄跳びの検定が始まります。検定は三年間かけてやり、自分の可能性に挑戦します。

緊張していた一年生も積極的にお当番活動や掃除をする姿も見られ遅くなりました。二年生は三年生に向けて、学童では最高学年になるので学童を引っ張っていこうと頑張っています。三年生は学童生活も残り数ヶ月となりました。楽しい思い出を沢山作ってくれたらなと思っています。」



ステンドグラス作りました



リリヤーン

■NPO 法人 小津倶楽部（代表：前原教久 委員）

1 台また 1 台と駐車場に車がやってきます。これは毎週土曜日に、小津倶楽部の活動拠点「おもむろ」に見られる風景です。長いこと続くコロナ禍で、イベントがらみの活動が制限される中、倶楽部員は畑作業・間伐材を利用した木工製品づくり・花壇づくりなど、思い思いの作業を行っています。



干し柿作りしました



間伐作業中



3 年生の木工体験

このような状況の中でも、いくつかのイベントを行いました。元木小 3 年生を対象にした木工製品作りは、小津倶楽部の事業の中で大切なものの 1 つです。今年は、食事に使う「箸」と木材の残材を使った「ミニハウス」づくりに挑戦しました。元木小の体育館で行われた体験は、初めてカンナを使ったり、色塗りを工夫して自分だけの家を作ったりと、苦労しながらも楽しんでいたようでした。後日 3 年生からお礼の手紙が届けられ、倶楽部の皆で読ませてもらいました。どの顔も笑顔がいっぱいで、来年に向けてさらにやる気がでてきたようです。 本当にありがとうございました。



箸とミニハウスを作りました

■放課後子ども教室（もとキッズランド）推進委員 折居義仁さん

5年目に入り、放課後子ども教室と学童合わせて130名余の子どもたちが週3日の活動を楽しんでおります。

コロナウイルス感染防止策として、対面してのオセロ・将棋や勉強の時にはマスクの着用をお願いしていますが、校庭での運動時はマスクの着用は不要に緩和されました。サッカーボールが公道に飛び出し、それを拾いに児童が公道へ出ることが散見されましたので、安全確保の策として10月よりサッカー遊びのエリア制限を設けました。

児童が自発的に校庭のゴミを拾うことや上級生が下級生の手を取って一輪車の乗り方を教える等の微笑ましい活動の光景がみられるようになりました。子どもたちの安全・安心な環境で楽しい学びの場の提供を目的とて安全管理員による運営・見守りは継続して行っております。



自発的にゴミ拾い

■元木小おやじの会 中島 隆弘 会長



70名の子どもたちが集結

令和4年8月20日におやじの会初の子ども向けイベント、

『うおーたーさばげー』を開催しました。イベント当日の新型コロナウイルス感染症および熱中症対策をおやじの会メンバーと校長先生との間でしっかりと話し合って実施することができました。事前申し込み30名弱に対し、当日は予想をはるかに超える70名近い子どもたちが集まりました。

イベントとしては大盛況で、

終了後に参加してくれた子どもたちからも、『楽しかったからまたイベントやってね。』とうれしい言葉も聞けました。大盛況でほっとした反面、おやじの会のメンバーだけでは人手が足りず、学校、学童の先生方や、おやじの会メンバーのご家族にも手伝っていただきました。

今後もイベントを継続する上で新規メンバーを引続き募集しておりますので、おやじの会で楽しいイベントを皆さんで作っていきましょう。



うおーたーさばげー熱戦中！

◆地域の情報

■防犯情報（八王子市 防犯・防災メール配信サービス）

令和4年度 八王子市不審者情報			12月23日現在	
学期		不審者情報	発生頻度	
2学期 (夏休み含む)	八王子市	69	2.3	日に1件
	学区内	2	78.0	〃

今年の2学期は市全体で昨年同期比13件減でした。また、学区内においてはこれまで2件（西寺方2件）報告があり、昨年比は2件減です。引き続き皆様のお見守りをお願いいたします。

次世代の恩方を担う子どもたちへ

両親が西寺方町に戸建てを購入したことから、私の恩方暮らしは始まります。周りを見渡せば山が連なり、自然豊かなこの地での遊びは学校が終われば川で遊び、山を走り、夏には昆虫を捕まえる。公園では野球をする。そんなことが日常だったように思います。

三十を過ぎ仕事もそこそこ、結婚もして子どもが生まれ家族を持ちました。自分のことより大事と思える事柄や感情が、日々多くなっていく変化の中、『子どもたちの記憶に何か残したい』そんなことを漠然と考える時間が多くなりました。

大盛況の恩方マルシェ



自社の宣伝広告費の予算を『オンガタマルシェ』という、何も無い場所の贅沢をコンセプトにしたイベントを企画し、開催させていただきました。知ったことは、何もなかったのは自分自身であって、この場所にはたくさんの人、たくさんのコトが眠っていることを知りました。一年に一度、老若男女、誰もが楽しめる場所があったらいいな、から始まりました。おかげさまで今年4回目を開催させていただきました。この開催には地域の方々をはじめ、地域企業、同級生、本当にたくさんの方々のご協力、ご支援のもと開催させていただいております。

そのような関わりが始まり、同じ志を持った人たちと商店街のない街に商店会を！『オンガタ銀座商店会』を2019年に発足。会員の商いとしての発見や行動、繋がり的发展。商店会としての地域との関わり、それを軸に活動しています。昨年にはタやけ小やけふれあいの里施設入り口に『オンガタVIEW（ビュー）』をみんなの商店街という位置付けでオープンさせていただ



オンガタVIEW



マスバーガー

きました。地元の案内店のような側面も必要と考え、地域からスタッフは雇用しております。店舗には会員の商品や作品などを展示販売。また地域団体の商品なども販売しております。地域産のブルーベリーを使用したブルベリースムージーや、地域観光資源のます釣り業をオマージュした、マスバーガーなる商品も開発しました。多い日には一日100食もの注文が入ります。会員と試作を重ね相談しながら考え生み出した商品です。また軒先では定期的に、自動車展示や、陶器などを扱うお山の暮らし市、アウトド関連など、各種イベントを開催しております。

そのような活動の先に、地域の未来へ新しい繋がりや名品、産物が確立され、雇用が生まれ地価が上がる（笑）そんな夢を見ながら日々活動しています。

まだ私は前に述べた『子どもたちの記憶に何か残したい』に対しては未完ですが、このような活動の継続により新たな仲間が増えアイデアも拡散し、地域に何かしらの変化を生み、結果子どもたちになかったはずの記憶をアップデートすることができているのかもしれない。

子どもたちが大人になり、幼少期の記憶を家族や同僚と話す際に、何かしら私たちがつくったコトの記憶を話してもらえるように常に進んでいたい。いつかそんな小さなコトを起こしている人たちの、点が繋がり線になり大きな円（縁）を描き、力強く頼もしい地域になっていくのかもしれない。私たちは後世へのきっかけづくりをしているだけなのです。

これからも地域の方々にはご指導、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

今回は恩方に生まれ育ち起業され、魅力的なイベントや店舗出店で恩方地域に貢献されている門脇大輔さんにご寄稿いただきました。元木小の子どもたちも、将来どのような人生を送っているかは未知数ですが、門脇さんのように故郷での日々を胸に、充足した日々を送っていて欲しいと願うばかりです。